

よせしま
寄島遺跡 (本発掘調査B)

所在地 安城市小川町地内
(北緯34度54分42秒 東経137度05分46秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)

調査期間 令和5年5月～6月

調査面積 860㎡

担当者 堀木真美子・河嶋優輝・池本正明



調査地点 (1/2.5万「安城」・「西尾」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局による鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県民文化局を通じて委託を受けて行った。調査区は鹿乗川左岸の市道となるが、横断する農道と排水路を切り回す都合上、5区に分割して実施した。南から順に23A区～23E区となる。

立地と環境 遺跡は鹿乗川流域遺跡群(南群)の一部を構成している。地形的には碧海台地東側縁辺に位置する沖積低地中の微高地となり、調査区地表面の標高は約8.3mを測る。

調査の概要 今回の調査は、平成24年度調査区12A・B区の西側に接する位置となる。いずれの調査区も市道下の細長い形状となる。検出された遺構は、弥生時代終末期～古墳時代に属するものが主体となる。調査区の幅が限定されており詳細は不明確だが、A～D区では竪穴建物が6棟程度存在する見込みとなる。また、最も北側のE区は、調査区のほとんどが旧河道となり、方向的には台地を開析する小河川の可能性が考えられる。ここからは中世以降の遺物を若干採集している。(池本正明)



23B・C・E区全景 (北から)



23B区 1020SI (北から)



C区 2015SP 出土状況 (北から)



23E区旧河道 (北から)